

# 令和6（2024）年度 事業報告書

（令和6（2024）年11月27日～令和7（2025）年3月31日）

-公益財団法人期間分-



公益財団法人

VICTORY FOUNDATION

## I.基本方針

### (1) 学生教育へのコミットメント

当財団は、服飾関連を学ぶ学生たちが将来のキャリアを築くために必要な教育環境を提供し、彼らの才能や熱意を最大限に引き出すお手伝いすることを使命とする。

### (2) 経済的サポートの架け橋

生活環境や経済的理由により、学資金支弁が困難な学生に対し奨学金の支給を行い、学費や関連費用の負担を軽減し、学生が学業に集中できる環境を整えることを目指す。

### (3) 次代への社会貢献

奨学金を受けた学生に対して将来的な社会貢献を期待し、学生が学んだ知識や技術を活かし、服飾業界の社会的地位の向上や業界の発展に貢献することを目指す。

### (4) 組織体制整備と透明性の確立

当財団は、組織体制の整備・拡充を進め、必要な諸規定を整備します。これにより、公正かつ透明な財団運営を促進し、信頼性の高い運営活動を行う。

## II.事業活動

### 1. 服飾奨学金事業

当財団は、服飾奨学生制度による明るい未来を目指す若者への経済的援助を通じ、その豊かな才能を開花する礎になるべく事業を行い、日本における服飾業界の社会的地位の向上や業界の発展に資するとともに、わが国の文化芸術等の振興を図り、人材育成の促進に寄与することを目標とし次の事業を行った。

#### (1) 活動報告

奨学生13名からの奨学金受給中に1回、生活状況（中間）報告書により学生生活等の経過報告を、受給期間終了後に、終了報告書の提出を受けた。

また、提出された報告書を元に個人が特定されない内容で当財団のHPに掲載し活動内容の周知を行った。

##### (1-1) 生活状況（中間）報告書

別紙1、令和6（2024）年度服飾奨学金事業生活状況報告（中間報告）参照

##### (1-2) 終了報告書

### Ⅲ.法人運営

#### 1.理事会・評議員会の開催

##### （1）理事会

- ① 開催日：令和7（2025）年3月9日 午前9時より開催  
開催場所：遠隔会議システムを利用して実施（Zoom）  
第一号議事 令和6（2024）年度収支予算変更の件  
第二号議事 令和7（2025）年度事業計画の件  
第三号議事 令和7（2025）年度収支予算の件  
第四号議事 定款変更の件  
第五号議事 理事選任の件  
第六号議事 監事選任の件  
第七号議事 評議員選任の件  
第八号議事 事務局長選任の件  
第九号議事 事務所移転の件  
第十号議事 令和7（2025）年度資金調達及び設立投資の見込みの件  
第十一号議事 評議員会の招集の件  
報告事項 代表理事による職務執行状況報告
- ② 開催日：令和7（2025）年3月24日 午前9時30分より開催  
開催場所：遠隔会議システムを利用して実施（Teams）  
第一号議事 資金運用計画の件

##### （2）評議員会

- ① 開催日：令和7（2025）年3月24日 午前9時より開催  
開催場所：遠隔会議システムを利用して実施（Zoom）  
第一号議事 定款変更の件  
第二号議事 理事選任の件  
第三号議事 監事選任の件  
第四号議事 評議員選任の件  
第五号議事 事務所移転の件

#### 2.その他

##### （1）運営組織に関する重要な事項

当法人においては、評議員、理事および監事に対する報酬等の支給基準に基づき、すべての評議員、理事および監事は無報酬であるため、報酬等の総額はなく、また、2,000万円を超える報酬・給与を受けている者もおりません。

(2) 事業活動に関する重要な事項

① 関連当事者との取引について

当法人においては、当該事業年度において関連当事者との取引は確認されておりません。

② 海外への送金の有無及びリスクの軽減策について

当法人は、当該事業年度において海外への送金は実施しておらず、それに関連するリスクも存在しないため、特段のリスク軽減策は講じておりません。

(3) 令和6（2024）年度事業報告の附属明細書

令和6（2024）年事業年度においては、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。

以上

別紙 1

令和 6 (2024)年度 服飾奨学金事業  
生活状況報告 (中間報告)



公益財団法人  
VICTORY FOUNDATION

令和6（2024）年度服飾奨学生13名の受給期間における生活状況について下記の通り報告いたします。

#### 1. 主な学生生活の状況（学業、部活など）

・学内でファッションデザイン画コンテスト：メンズデザイン、キッズデザインの2つが行われ、メンズ、キッズのどちらも1位に選ばれることができました。どちらもリアルクローズの服をデザインすることを条件に、デザインしました。その他には、1月に行われる卒業制作展に向けて、グループを組みコンセプトに合わせてそれぞれ作品を制作しました。グループ活動では、グループリーダー、デザインリーダーとしてみんなのサポートに繋がるよう行動し、パターンメイキングのサポートやグループデザイン画とプログラム画像の制作、デザインのアドバイスや素材のデザイン、発注などを行いました。素材のデザイン作成は、初めての挑戦でしたが、一人一人違うパターンだったためとても勉強になりました。そして前期の成績が確定し、課題提出率、出席率ともに100%、成績評定は全科目秀を頂きました。

また、学年の代表として、一年生の授業をサポートするティーチングスタッフに選出され、パターンメイキングや縫製を教えています。1年生の授業のサポートを通して、4年生では省いていた工程などもあり、改めて基礎を復習できているためとても勉強になっています。学外の活動として、アナザーアドレスというリメイクのコンテストを行っています。合計で3着制作しており、今年のトレンドアイテムのバルーンスカート、キュロットパンツをモチーフにデザインし使用されなくなった服を使用して新たな1着に生まれ変えて着ている人も見ている人もハッピーになれるをキャッチコピーとして制作しています。

・学校の研修（インターン）制度を利用し、様々なアトリエや会社で経験を積んでいます。主に行っているのは、ミュージカル等の舞台衣裳を中心に製作しているアトリエと、ファッション雑誌編集部での有給業務です。アトリエでは舞台業界や衣裳について実践的な経験と知識を学びながら、人脈も築いています。実際の衣裳製作を通して、自分に足りていない技能に気づくことができ、苦手なことを改善する意識を持って授業を受けられるようになりました。雑誌編集部では、PCや電話対応などの事務業務や、撮影や編集作業など出版ならではの業務の手伝いをさせてもらっています。一般企業での経験は、衣裳製作などの技術的な職業に就いても生かせると思い、やりがいを感じています。

・現在、学業では布の繊維に関する研究や実験に特に力を入れており、将来、被服分野に強い家庭科教員を目指す上で必要な専門知識を着実に身につけています。たとえば、異なる繊維の燃焼特性を調べ、それぞれの素材が燃焼する際の特徴や残渣の違いを分析することで、繊維の種類を正確に見分ける方法を学びました。また、繊維を顕微鏡で観察し、側面や断面の形状を詳しく調べる実験を通じて、繊維の構造とその物性や特性との関係について深く理解することができました。これらの実験を通じて得た知識は、衣服の素材選びや機能性を考える上で非常に役立つと感じています。

一方、学外活動ではボランティアサークルに所属し、福祉施設の訪問や復興支援住宅での活動に取り組んでいます。福祉施設では、入所者の方々と一緒にハーバリウム作りを行う時間

を設け、作品作りを通じてコミュニケーションを深めました。復興支援住宅では、入所者の方々と一緒に巾着作りを行う時間を設け、住民の方々の話を伺いながら、震災後の暮らしや課題について理解を深めました。これらの活動を通じて、人々の生活に寄り添い、被服を通じて支援できる可能性について考える機会を得ています。こうした経験は、将来教員として地域社会に貢献するための貴重な財産となっています。

・最近卒業制作に集中して取り組んでいます。テーマの選定からデザインの細部、素材の選び方まで、試行錯誤を繰り返しながら、自分の思い描く作品を形にするために日々努力しています。卒業制作は自分の集大成となる大切なプロジェクトなので、クオリティにこだわり、一つ一つの工程を丁寧に進めています。また、先日応募したコンテストで一次選考を通過し、現在はそのコンテスト用の作品制作も同時に進めています。限られた時間の中で複数の制作を両立させるのは大変ですが、それだけ自分のスキルやアイデアを磨く機会になると考え、全力で取り組んでいます。さらに、学校の学外連携プログラムにも参加しており、毎週木曜日の夜にはExcelやPowerPointのスキルを学んでいます。このプログラムを通じて、実務的なスキルやプレゼンテーション能力を高めることを目指しています。これらの経験が、卒業後の進路やキャリアに役立つと信じて、時間を有効活用しながら取り組んでいます。学業や制作、スキルアップに加えて、限られた時間を管理しながら自己成長に努める日々は忙しいですが、とても充実しています。今後もこれらの経験を活かしながら、より良い成果を目指して努力を続けていきたいと思っています。

・大阪モード学園では、昼間部の授業に加えてキャリアアップコースという、夜間部の授業も受講することが可能です。将来を見据え、就職に役立つ知識・技術を習得するため、夜間部のグラフィックデザインコースを受講することを決意いたしました。今年度の10月より1年間の授業を受けており、昼間の授業で習得したパソコンスキルに加え、夜間部の授業でさらに知識・技術を深めることができているため、大変有益だと感じております。昼間部の授業では、4月より無遅刻・無欠席及び課題の提出率に関しても100%を保ち、さらに課題のレベルアップを意識しながら日々勉学に勤しんでおります。

・2年生後期ではジャケットの製図と制作、ドレーピング（立体検証）、ペンタブレットでのデザイン画、ファッションショー準備などの授業があります。ジャケットではパターン裏地操作を新しく学び、ドレーピングでは身頃で時の目がどのように変化するかや、フレアスカートで美しいシルエットとは何かを組みながら試行錯誤しています。今後はコンテストに応募する機会が増えることやPC業務に慣れる為、PCでデザインを描く練習をしています。

夜間部のファッションビジネス学科ではリテールテクニックの授業で販売接客とコミュニケーションについてやビジネス文書作成、アパレルマーチャンダイジングの授業で市場調査、パーソナライズの見え方、ストアマーチャンダイジングの授業でショップ運営などを学んでいます。

## 2. 主な奨学金使途

・ジャケット制作代（ツイード生地、裏地、芯地、釦など付属）→¥10,500/ファッションビジネス検定受験料→¥7,150/ニット初級専科（手編み）の毛糸とかぎ針、棒針→¥1,200

2025年度進級学費 ファッションデザイン学科¥1,292,900/CADパターン専攻¥358,500へ充当

・主に学費として活用させていただいておりますが、その他にも検定試験の受験費や教材費としても役立てています。特に、服飾教育に関連する資格試験を受験する際には、この支援のおかげで受験費用を確保することができ、無事合格を果たすことができました。また、専門書の購入にも充てることができたため、より深い学びを得る環境が整いました。こうした支援があったおかげで、学業に専念しつつ、将来の目標に向けて着実に歩みを進めることができている。このような貴重な機会をいただけたことに、心より感謝申し上げます。

・アルバイトの給料で足りなかった分の学費や、授業で製作する洋服の素材代に活用しています。校内ファッションショーで製作する衣装の生地には、あまり安くないものもあるので、奨学金が助けになっています。

奨学金のおかげでアルバイトの量を減らせたので、インターンや課題製作に時間を使えるようになりました。おかげで、衣装製作の技術力がついてきたと実感しています。

・奨学金の大部分は卒業制作やコンテスト作品の制作費用に充てています。卒業制作ではテーマに合った素材を選ぶ必要があり、高品質な布や特殊な道具を揃えるために多くの費用がかかります。また、試作品の作成やプロセスの中で必要となる追加の資材費、印刷費なども含まれます。さらに、コンテスト作品においては、独自性や完成度を高めるために細部にまでこだわったデザインや制作が求められるため、資材や制作過程にかかる費用が増加します。限られた予算の中で最大限の成果を出すために、使用用途を計画的に管理し、無駄のないよう心がけています。奨学金は生活を支えるだけでなく、自分の夢や目標を実現するための大切な資金源となっています。

・受給させて頂いている奨学金に関しては、夜間部グラフィック学科の受講費用へと使用させて頂きました。おかげさまで、ECサイトやWEB関係の仕事に就きたいと考えている自分自身にとって、自分の可能性を広げることができ、強みを持つことができます。残ったお金は次年度の昼間部の学費へ充てることを考えております。

### 3.来年度、積極的に取り組むこと

・学校と企業が連携して行われていたメタバース空間のキャラクターデザインやクレジットカードのデザインが選ばれ、沢山の人々に届けることができました。これをきっかけに、グラフィックデザインとメタバースの仕組みについて深く勉強したいと思っています。これは、私の夢の一つであるメタバース空間でのショップ展開となりたい自分の表現を気軽にするという夢にも繋がっているため、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

・来年度は、1年生で学んだ基礎的な服飾の知識を応用し、より専門性の高い分野に挑戦していきたいと考えています。具体的には、環境に配慮した素材の研究や、サステナブルなファッションデザインについての学びを深め、服飾教育における実践的な知識を身につけることを目指します。さらに、講習会やセミナーへの参加を通じて、教員として必要な指導力や実践力の向上にも努めます。特に、被服教育を通じた環境問題や文化継承の重要性を伝えるための教材作りや授業計画の作成に力を入れたいです。ボランティア活動も継続し、現場での実体験を活かして、生徒により説得力のある授業を提供できる教員を目指していきます。

・来年度はさらなる成長を目指し、新たな検定への挑戦を計画しています。これに加えて、これまで制作してきた作品に改良を加え、新しいデザインにも積極的に取り組んでいきたいです。これらの成果をより多くの方に見ていただけるよう、展示会の開催を目指して準備を進める予定です。また、将来的には海外での経験を積むことを視野に入れており、その一環として語学力を向上させるための学習にも力を注ぎたいと考えています。これらの取り組みを通じて、自分の目指すデザイナー像に近づくとともに、新しい挑戦を楽しみながら成長していきたいです。

・夜間でCADパターン専攻も学ぶ為 平面製図の技術向上、2Dと3DCADの知識を身につけてソフトを適切に扱えるようになることを目標としています。引き続き検定の取得勉強に力を入れていきたいです。

現在は洋裁技術検定中級を学習しており、来年度は洋裁技術検定上級とリテールマーケティング検定に挑戦したいと考えております。

#### 4.その他

・奨学金を通じて得られた支援に改めて感謝申し上げます。この支援は、学業や社会活動を充実させる上で欠かせない存在となっています。将来は、被服分野に特化した家庭科教員として、環境問題や地域社会の課題解決に貢献できる人材となることを目標としています。特に、サステナブルな暮らしの提案や、文化を継承しつつ新しい価値を創造する教育を実現したいと考えています。そのためにも、今後も学びを深め、努力を重ねてまいります。

引き続き、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

・高校で学んでいたスペイン語の学習を独学で再開し、今年の12月にスペイン語技能検定を受験しました。まだ受験結果は出ていませんが、今の実力は出せたと感じています。英語の次に世界で使用者が多いスペイン語ができるようになれば、日本国内で働いていても、海外と関わる時でも役立てられると考えています。

実際にアルバイト先の飲食店に外国人観光客のお客様が来たときに活用できました。今後も語学学習を継続していこうと思っています。

・授業をこなしていく上で学んだことがあります。スタイリストという職業の厳しさ、そ

してやりがいです。後期では、先生方が私たちのために、現在活躍中のプロスタイリストの方々の特別講義を設けてくださいました。アシスタント時代のお話をお聞きすると、みなさん口を揃えて「めちゃくちゃ大変だった。」とおっしゃっていました。怒られることは日常茶飯事で、早朝から深夜までアシスタント業務をこなし、生活を保つためにアルバイトもしなければならぬ状況で常に睡眠不足だったとお聞きしました。一人前のスタイリストになった後も壮絶だったそうで、撮影中いきなり、数十人の私服のスタイリングを今すぐ用意しなければいけなくなり、現地の服屋さんをめぐり、たった3時間でスタイリングを組んだというお話もお聞きしました。また、ある方は、お店に並べるディスプレイのスタイリングを毎月30体、1年間こなししたそうです。そんな現場の現状をお聞きした時、私は本当にスタイリストとしてやっていけるのかなと不安になりました。ですが、スタイリストの先輩方が口を揃えておっしゃっていたことが「継続することがすごく大事です。どんなに厳しくても理不尽でも、諦めずに続けた人が最後まで残る、夢を叶えることができる、そういう世界である。」と。

この特別講義で、スタイリストという職業を続けるには、経済的な基盤を作る大切さ、継続するための精神力・やりがいを見つけることがとても大切だということを知りました。私の夢を実現させるためにも、夢を言葉にして、積極的に学び、力をつけていきます。

・私の夢は衣装関係の仕事をする事、と前に提出しましたが、後期になってから特に知り合いの衣装さんのお手伝いをさせてもらえるようになりました。前まではお手伝いに行っても大したことが出来ず、またきてね としか言われていなかったのが、最近は 次はいつ来られる？ と言われるようになったことが自分も役に立てていると感じてうれしいです。奨学金を頂けたことで自分がやりたいことに挑戦し、できないことができるようになり、自分で成長を感じられることが自信につながっています。今後も常にモチベーションを高く、積極的に学べる環境に感謝して真面目に頑張ります。

・一年生の後期に入り忙しくなり、ファッションショーや個人制作に追われる日々を過ごしていますが、とても楽しく充実しています。自分の好きな学業に専念できることに感謝しております。

・私が昼間部で在籍しているスタイリスト学科では、メディア撮影の授業を実施しており、メディア企画からスタイリング企画をし、実物を使用したモデル撮影した後、パソコンでの編集作業及びマップ制作の課題を提出することになっております。そのマップ作成の際には、夜間部グラフィック学科授業で培った能力を生かし、より良い作品に仕上げたいと考えております。来年2月には授業でインターンシップが予定されておりますので、授業で習った知識及び技術以外に、さらなる知識の習得や、当たり前のことを当たり前になすことの大切さを日々意識し、精進していきたいと考えております。

さらにインターンシップ後、就職活動が開始されるため、奨学金のおかげで習得した技術を生かし、自信をもって積極的に就職活動をおこなって参ります。

以上

別紙 2

令和 6 (2024)年度 服飾奨学金事業  
活動報告書



公益財団法人  
VICTORY FOUNDATION

## 1. 初めに

当財団は、ファッション産業の発展と次世代の人材育成を目的に、令和6（2024）年度より服飾奨学金事業を実施した。経済的な不安を抱えながらも志を持ち学ぶ学生に対し、安心して学習に専念できる環境を提供することは、社会にとって極めて意義深いことである。

本報告書は、奨学金を受給した学生の成果や学びを総括したものである。支援の実態とその影響を広く共有することで、公益財団としての役割を果たすとともに、支援のさらなる発展に繋がりたいと考える。

## 2. 奨学金の使途と学業への具体的な影響

当財団の奨学金は、学費、教材費、生活費、交通費といった学習に不可欠な支出に活用された。特に服飾系の学科では、布地、資材、印刷・撮影費など多くの制作費用が必要となり、その費用を奨学金で賄えたことは、作品の完成度向上に大きく貢献した。

また、スキルアップのための外部講座や、デジタルツールの購入、資格試験の受験料など、学外の活動にも積極的に投資された。奨学金は、金銭的制約によって失われがちな挑戦の機会を確保し、学生に高いレベルでの学びを可能にした。

支援の有無が進級や卒業制作の継続に直結する学生もおり、奨学金は単なる経済援助にとどまらず、教育の持続性を支える基盤となっていた。

## 3. 進路への取り組みと学業外活動の展開

多くの学生は、ファッションショーや学外展示、インターンシップ、地域活動など、学外での活動に積極的に参加した。現場に触れることで、実務力と創造力の両立を実現し、将来像を具体化させていった。

ブランド立ち上げを視野に入れた学生は、SNS 発信、顧客リサーチ、商品企画などに取り組み、創作の域を超えてビジネス感覚を養っていた。教職を目指す者は、教育実習に加え、地域の学習支援や家庭科授業の補助などに参加し、教育現場で求められる実践的能力の向上に努めていた。

また、語学や IT、デジタル表現技術への挑戦も盛んであり、次代のファッションに必要なとされる多面的な能力を獲得しつつあることが報告からうかがえる。

## 4. 支援への感謝と今後への展望

学生からは、支援を受けたことへの深い感謝とともに、「支援する側に回りたい」との声が多く寄せられた。奨学金によって精神的な安定が得られたことにより、創作や研究への集中が促され、結果的に高い成果を得ることができたという。

このように、奨学金の存在は単なる金銭支援にとどまらず、自己肯定感や主体性の育成にも繋がっている。感謝の心は学生の内面を変化させ、社会貢献意識の醸成へとつながっている。

支援が学生の意識と将来像に与える影響の大きさを鑑みると、奨学金事業の持つ教育的・社会的価値は極めて高いと言える。

## 5. 総括

令和6（2024）年度の服飾奨学金事業を通じて、私たちは数多くの学生の成長と変容に触れることができた。彼らの努力と成果は、今後のファッション業界や教育分野において大きな力となることが期待される。

今後も当財団は、学ぶ意欲のある学生が経済的理由によって夢を断念することのない社会の実現に向け、支援を継続していく所存である。関係各位におかれては、引き続きのご理解とご協力を賜りたく、本年度の活動報告とさせていただきます。

以上